

子ども用



伝道地便り

2023年 第2期 中央ヨーロッパ支部

- | | |
|--------------------|-------|
| 第1話「クリームがのったケーキ」 | ルーマニア |
| 第2話「わあ~~~~~！」 | ルーマニア |
| 第3話「これは教会じゃない！」 | ポルトガル |
| 第4話「屋根のない家に雨は降らない」 | ドイツ |
| 第5話「見当たらない車の鍵」 | ドイツ |
| 第6話「赤アザが消えた」 | イタリア |

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列举いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. クリームがのったケーキ ルーマニア



カタリン

「マリネラさんの家に行きましょう。」

お母さんはニコニコしながら、10歳の息子のカタリンにそう言いました。

カタリンはあまり行きたくはありませんでした。なぜなら、お母さんとマリネラさんが一緒に読む聖書の言葉を、カタリンはよく理解できなかったからです。

けれども、行くと1つだけいいことがありました。それは、マリネラさんがいつもホイップクリームとチェリーののったとっても美味しいルーマニアのサヴァリナというケーキを食べさせてくれることです。

その日、カタリンはケーキが食べたかったので、「行くよ！」と返事をしました。

しばらくして、カタリンとお母さんは、マリネラさんのアパートの部屋でテーブルの席につきました。マリネラさんは、ケーキを出してくれました。

カタリンは、マリネラさんとお母さんが聖書を読むのを聞きながらホイップクリームとチェリーののった甘いケーキを、口に入れました。

カタリンに聖書の言葉は理解できませんでした。それよりもケーキに興味がありました。

ところがある日、変化が起こりました。カタリンはお母さんと一緒にマリネラさんのテーブルについて、いつものようにホイップクリームとチェリーののった甘いケーキを食べていました。マリネラさんは、次の聖書の箇所を読みました。

「安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。」（出エジプト記 20 章 8～10 節）。

この聖句を聞いたとき、カタリンは初めて聖書の言葉がわかりました。週の7日目である土曜日が大切な日であることがわかったのです。

それ以後、彼は安息日に宿題をするのをやめました。安息日に家の仕事をすることもやめました。安息日にはアドベンチストの教会に通うようになりました。安息日を聖なる日として守るようになったのです。

それからというものカタリンは、マリネラさんのアパートでケーキを食べるだけでなく、マリネラさんとお母さんとの聖書研究に参加するようになりました。そして、2人が話合っていることについて質問するようになりました。

家でも、カタリンは自分で聖書を読むようになりました。彼の1番のお気に入りの聖句はダニエル書 12 章 3 節です。「賢い者は、大空の輝きのように輝き、また多くの人を義に導く者は、星のようになって永遠にいたるでしょう」（口語訳）。この聖句の意味は、他の人を神様のもとに連れてくる人は永遠に星のように輝く、というものです。カタリンは友だちを神様のもとに連れてきたいと思いました。

聖書を読んで、カタリンは自分が神様について学んだことを友だちに話すようになりました。そうしているうちに、ある安息日、1人の友だちがカタリンと一緒に教会に来てくれました。

カタリンにとって、それは大きな喜びでした！

カタリンはもっとたくさんの友だちに教会に来て欲しいと思いました。彼は祈りました。すると、ウラドという友だちのことを思い出しました。ウラドが以前、聖書が欲しいと言ったので、カタリンは聖書を見つけて、あげたことがありました。

カタリンは、「ぼくと母さんがマリネラさんと聖書を読んだように、ぼくも、ウラドを誘って一緒に聖書を読もう」と思いました。

ウラドに電話して聖書を読もうと誘うのは勇気のいることでした。カタリンはもう一度祈ってから電話しました。

「もしもしウラドかい？ 君が聖書を欲しいと言って、ぼくがあげたことを覚えているかい？ 一緒に聖書を勉強しない？」

ウラドはこの提案に賛成しました！ ウラドは聖書研究がとても楽しかったので、友だちのアンドレも誘って、一緒に聖書を読むことになりました。

今日、カタリンは、ウラドとアンドレと一緒に、毎週、安息日に教会に通っています。彼はとても幸せです。そして安息日にもっとたくさんの人を教会に招くことを計画しています。たくさんの人をイエス様のもとへお連れしたいと思っているからです。

13回献金の一部は、カタリンのような子どもたちが聖書を読んで、イエス様について学ぶことができるように、ルーマニアの学校と学童保育のために用いられます。皆さまの献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・地図でルーマニアのブカレストを見つけましょう。
- ・カタリンはアドベンチストの人々が聖書研究を開いているルーマニアに 50 箇所以上あるセンターのうちの1つ、ソーラ・スクリプチュラ伝道センターでも聖書を学んでいます。
- ・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- ・中央ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/eud-2023
- ・この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I will Go」戦略計画の以下の項目の具体例です。
「個人または家族を聖霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
「子ども、青年の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」（「霊的成長の目標」No.6）
「青年が神様を第一にし、聖書的世界観を持って生きる」（「霊的成長の目標」No.7）
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご参照ください。

宣教メモ

- ・1904年、J・F・ヒンター（ギンター）は、ロシアからブカレスト（ルーマニアの首都）に派遣されました。彼は16人のメンバーで、この街に最初の（アドベンチストの）集会を組織しました。しかし、その後、ルーマニア正教会から公式見解として強い反対意見が公表されると、ギンター牧師は追放されました。彼の後任には、当局から追放されることのなかったルーマニア人牧師が就任し、ルーマニアにおけるアドベンチストのさらなる発展と普及に大きな影響を与えました。

2. わぁ~~~~~！

ルーマニア



デニサ

2歳のデニサは幼稚園に通うのが大好きです。それから、親友のティメヤと遊ぶのも大好きです。

けれども、親友のティメヤが他の子どもたちと遊ぶとデニサは悲しい気持ちになります。そして、部屋の隅に行って「わぁ~~~~~！」と大声で泣くのです。

このことが、毎日続きました。

「わぁ~~~~~！」

どうしたらデニサは笑顔になるのでしょうか？

デニサと親友のティメヤは、ルーマニアの幼稚園にいつも一番早く登園していました。

ティメヤのお母さんは幼稚園の先生をしていました。そして、毎朝、デニサを迎えに、車でデニサの家に行きました。ティメヤはいつも車と一緒に乗っていました。3人は幼稚園に車で一緒に行っていたのです。

ある日、デニサとティメヤは、いつものように他の子どもたちよりも早く、幼稚園にやってきました。

2人の女の子は楽しくかくれんぼをしました。大きな青と緑のテーブルの下やトイレの中、それから椅子の後ろにも隠れました。そのあと、粘土やぬり絵遊びをしました。

しばらくすると、他の子どもたちが登園してきてティメヤはその子たちと一緒に遊びました。デニサはそれが気に入りませんでした。彼女は自分だけに注目して欲しかったのです。部屋の隅に行き、床に座り、大声で泣き始めました。

「わぁ~~~~~！」

先生がやってきて彼女を抱きしめました。

「泣くことないのよ。ティメヤとだけじゃなくて、みんなと遊ぶほうがいいわ」

デニサは泣き止みました。先生が自分に注意を向けてくれたのがうれしかったのです。そして、先生のお話を聞きました。

「一緒にお祈りしましょう」と先生は言いました。

毎朝、子どもたちは礼拝をしてひざまずいて祈っていたので、デニサはどうやって祈るかを知っていました。彼女はすぐにひざまずきました。先生もひざまずいて、先生が先に祈りました。

「天のお父さま、どうかデニサが落ち着くことができ、ティメヤとだけでなく、他のお友だちとも遊ぶほうがよいことを知ることができますように」

続いてデニサも祈りました。

「主よ、私がもう怒らないようにどうぞ助けてください。泣くのをやめることができますように」

祈り終わると、先生はお友だちと一緒にする活動のお手伝いをしてくれないかとデニサに頼みました。「私と一緒に来てごらん。そして一緒に遊びましょう」と先生は言いました。

しばらくしてデニサは子どもたちのグループに入り、一緒に遊び始めました。みんなで鳥やかえる、バッタ、チョウ、そして金魚の木製パズルを作りました。デニサは黄色い胸と茶色と緑の羽をもった小さな鳥のパズルが特に気に入りました。

デニサの幼稚園での最初の年、先生はデニサと一緒に、たくさんお祈りしました。

デニサもその年、先生と一緒に、たくさんお祈りしました。

2年目になると、いろいろなことが、もっとうまくいくようになりました。

しばらくすると、デニサはティメヤと先生と一緒に安息日に教会に行くようになりました。先生は、安息日学校のクラスを担当していました。デニサはクラスで祈ることや、イエス様のことをもっとたくさん学ぶことが好きでした。

現在、デニサは10歳ですが、今でもよく祈っています。安息日学校で先生が、お祈りしたい人はいますか、と尋ねると、彼女はいつも一番に手をあげます。デニサとティメヤは今でも親友です。ほとんど毎日一緒に遊んでいます。

13回献金の一部はルーマニアに学校と学童保育のために用いられます。アドベンチスト幼稚園に通ったデニサのように、子どもたちが祈ることを学ぶために役立てられます。皆様からの惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でルーマニアを見つけましょう。
- 今期の13回献金の一部が送られるルーマニアでの2つの伝道プロジェクト（小学校と学童保育の開設）の場所を地図で示しましょう。モイセイ（小学校）とガラツィ（学童保育）という2つの町を見せるためにフェイスブックの地図をダウンロードしましょう。

bit.ly/fb-mq

- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 中央ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。

bit.ly/eud-2023

- この伝道地よりはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の以下の項目の具体例です。

「個人または家族を聖霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

「子ども、青年の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」（「霊的成長の目標」No.6）

「青年が神様を第一にし、聖書的世界観を持って生きる」（「霊的成長の目標」No.7）

詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ルーマニアは、世界有数のプラムの生産国です。また、EUで最大のトウモロコシの生産でもあります。



3. これは教会じゃない！

ポルトガル



カルロス

あなたはセブンスデー・アドベンチストの学校に行っていますか？

もしそうならそれはなぜですか？

カルロスの両親は、9歳の彼をセブンスデー・アドベンチストの学校に入学させました。その理由はたった1つです。学校が家から近かったからです。両親はアドベンチストではありませんでした。彼らは、学校がアドベンチストであるかどうかに関心がありませんでした。ただ、ポルトガルのリスボンにある家から近いという理由で、アドベンチストの学校に入学させたのでした。

カルロスは、学校で今まで聞いたこともないことを耳にしました。アドベンチストは日曜日ではなく土曜日に教会に行くということです。また、アドベンチストは赤ちゃんにバプテスマを授けないことも知りました。

クリスマスの季節が来て、カルロスは、今まで見たことのないものを見ました。それは、教会らしくない教会です。彼は、学校が主催する特別なクリスマスプログラムのために、アドベンチスト教会を訪れました。

カルロスは教会に入ったとき、目を大きく見開いて、とても驚きながらこう思いました。「これは教会じゃない！ ここには聖徒たちの像がない！」

カルロスの知っている教会は、聖人の聖画像や彫像がたくさんありました。しかし、アドベンチスト教会には1つもないのです。今まで見たどの教会ともまったく異なっていました。

しかし、カルロスはすぐにそんなことは忘れてしまいました。クリスマスのプログラムが素晴らしいものだったからです！ クラスメートたちがイエス様を賛美する歌を聞いたり、聖書の劇を演じたりするのを楽しみました。そして、とても興味をひかれました。

プログラムが終わって家に帰ると、カルロスは両親にたくさんの質問をしました。

「どうしてアドベンチストは日曜日でなく土曜日に礼拝するの？」「どうしてうちの教会には聖人たちの像があってアドベンチストの教会にはないの？」「どうしてうちの教会は赤ちゃんが生まれたらバプテスマを授け、アドベンチスト教会は授けないの？」

両親は質問にできる限り答えました。しかし、聖書をよく知らなかったので、カルロスを満足させることはできませんでした。

それからしばらくして、カルロスはアドベンチストの学校の友だちにも同じ質問をし始めました。

「なぜ僕の教会は日曜日で、君たちの教会は土曜日なの？」「なぜ僕の教会には聖人たちの像が、君たちの教会にはないの？」「なぜ僕の教会は赤ちゃんが生まれるとバプテスマを授け、君たちの教会はしないの？」

友だちは彼の質問に、聖書から、できる限り答えました。カルロスは、彼らの答えが聖書の言葉によって裏付けられていることに驚きま

した。彼は、自分の考えを正当化しようと試みました。神様が礼拝の聖なる日を土曜日から日曜日に変えられた聖句を見つけようとししました。神様が教会に聖人の像を置き、赤ちゃんにバプテスマを授けるようにと言われた聖句を見つけようとししました。しかし、そのような聖句を見つけることはできませんでした。

カルロスが答えを求めて聖書を読んでいると、友だちは彼をパスファインダーの集会に誘いました。

カルロスはパスファインダークラブを楽しみました。特にバッジをもらうのが好きでした。バッジをもらうためには、聖書を読む必要があります。たくさんのバッジをもらうために、彼はもっと聖書を読みました。

聖書を読むうちに、なぜアドベンチストは安息日に教会に行き、教会に聖人の像を置かず、赤ちゃんにバプテスマを授けないのか、わかってきました。アドベンチストは、神様をとても愛していて、聖書に書かれている神様の教えに従うことによって神様への愛をあらわしていることを知りました。

イエス様は、「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。」(ヨハネ 14:15)と言われました。カルロスも神様をとても愛していました。聖書に従って神様への愛をあらわしたいと思いました。

16歳になったとき、彼は心をイエス様におさげし、バプテスマを受けました。お父さん、お母さん、そして他の家族も彼のバプテスマを見に来ました。

現在、カルロスは教会のリーダーであり、アドベンチストの妻と、教会で活躍している成長した3人の子どもたちがいます。

カルロスはまた、パスファインダークラブの活動をマスターガイドとして、今も行っています。

カルロスは、家から近いという理由で両親がアドベンチストの学校に入学させてくれたことを、とても幸せに思っています。この学校に通うことで、彼の人生は大きく変わりました。

今期、あなたの13回献金はポルトガルのセトゥーバルにセブンスデー・アドベンチストの小学校を開校するために用いられます。子どもたちの人生が神様の力によって変えられるためです。皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でポルトガルのリスボンを見つけましょう。また、今期の13回献金によって開かれるポルトガルのセトゥーバルの学校の位置も教えましょう。このためにミッション地図を次のサイトからダウンロードすることができます。bit.ly/fb-mq
- 写真の中でカルロスが立っている場所は、彼が子ども時代、クリスマスプログラムに参加したリスボンのアドベンチスト教会のバルコニーです。
- カルロスはスペイン、スイス、そしてイタリアのいくつかの国際会社で働いてきたビジネスマンで、ポルトガルのASI(アドベンチスト実業家協議会)の会長を務めていました。彼はアドベンチスト学校で未来の妻となるべき女性と出会いました。
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 中央ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。[Bit.ly/ecd-2023](https://bit.ly/ecd-2023).
- この伝道地だよりはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。
「個人または家族を霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」(「霊的成長の目標」No. 5)
「子ども、青年の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」(「霊的成長の目標」No. 6)
「青年が神様を第一にし、聖書的世界観を持って生きる」(「霊的成長の目標」No. 7)
詳しくはウェブサイト。IWillGo2020.org をご覧ください。

4. 屋根のない家に雨は降らない ドイツ



ブリジット

ブリジットおばあさんの家は、夏の暑さで屋根にひび割れができてしまったために、新しい屋根が必要でした。雨が降ると家の中は雨もりしました。

ブリジットおばあさんは、屋根をなおすためのお金が十分になかったので、節約してお金のため始めました。

そんなとき、教会で、他の国の人たちにイエス様のことを伝えるすばらしい伝道プロジェクトが行われることを聞きました。

そこで、自分のお金をそのプロジェクトのために献金し、屋根のことは神様にお任せすることにしました。

彼女が、伝道プロジェクトのために献金をしてからたった数日たった日のことです。1通の手紙が家に届きました。開けてみると、なんと屋根を新しくするのに十分なお金が入っているではありませんか！ それは、神様の奇跡で

した。

古い屋根が取り外されました。しかし、新しい屋根が完成するまでには時間がかかります。大きな屋根のために、完成まで4週間が必要でした。

ブリジットおばあさんは心配しました。季節は夏でしたが、時々雨が降るからです。彼女は自分が雨に濡れるのは平気でした。しかし、屋根のない家では、家の中のベッドは濡れてしまいます。それに、ソファも、椅子も、テーブルも、服も、本も、それに聖書さえも濡れてしまいます。家中のものが濡れてしまうので、心配だったのです。

ブリジットおばあさんは祈りました。

「神様、どうか雨を降らせないでください。私たちはここに住んでいて、雨が降れば、家中のものが濡れてしまうのです。」

その日、雨は降りませんでした。

ブリジットおばあさんは次の日も同じように祈りました。

「神様、どうか雨を降らせないでください。私たちはここに住んでいて、雨が降れば、家中のものが濡れてしまうのです。」

雨は降りませんでした。

1週間が過ぎ、2週間、3週間と経ちました。ブリジットおばあさんは祈り続けました。雨は降りませんでした。

ところが、ある日、空が大きな黒い雲でいっぱいになりました。空いっぱいになり、たちこめた雲は多くの水分を含んでとても重く、地面につきそうなほどでした。

ブリジットおばあさんは心配そうに雲を見つめ、祈りました。

「神様、どうか雨を降らせないでください。私たちはここに住んでいて、雨が降れば、家中のものが濡れてしまうのです。」

彼女は隣の家の窓に雨が降り始めたのを見ました。

はじめは、数滴でしたが、次第に多くなって、すぐに雨は隣の家にザアザア降りはじめました。

見ているブリジットおばあさんの腕に何か濡れたものが感じられました。よく見ると1粒の雨が腕に落ちていました。するとまた別の濡れたもの、雨粒が落ちてきました。

ブリジットおばあさんは祈りました、

「神様、どうか雨を降らせないでください。私たちはここに住んでいて、雨が降れば、家中のものが濡れてしまうのです。」

すると、彼女の腕に雨粒が落ちてこなくなりました。

しかし、隣の家にはまだ雨が降っています。ブリジットおばあさんが、近所の他の家々を見ると、そこにも雨が叩きつけていました。

30分間、家の右側にも、左側にも、道の向かい側にも雨は降り続けました。

ブリジットおばあさんの家の上にも大きな黒い雲が低く垂れ込めていました。しかし、雨はまったく落ちてきませんでした。彼女のベッドも、ソファも、椅子も、テーブルも、服も、本も、聖書も濡れませんでした。家の中のものは何1つ濡れなかったのです。

次の日、みんなが激しい大雨のことを話していました。ひどい土砂降りの雨でした。しかし、ブリジットおばあさんの屋根のない家に、雨はまったく降りませんでした。彼女の家は守られたのです。

彼女は主に感謝と賛美の祈りをささげました。

「感謝します。主よ、感謝します。」

その1週間後、新しい屋根が完成しました。屋根が出来上がると同時に雨が振り始めました。しかし、ブリジットおばあさんは気にしませんでした。すべてのものは、もう屋根のついた家の中で守られているからです。

3年前、ブリジットおばあさんの母国である

ドイツのミッションプロジェクトのために、13回献金をおささげくださり感謝いたします。ドイツは世界中にたくさんのアドベンチスト宣教師を送り出していますが、今回の献金は、ドイツのダルムシュタットにある宣教師を養成する場であるマリエンヘーエ・アカデミーの本館を改修するために用いられます。さらに多くの宣教師を送り出すための助けとなります。

〈お話のヒント〉

- ・地図でドイツを見つけましょう。
- ・ブリジットおばあさんは88歳です。
- ・ブリジットおばあさんは黒い嵐の雲が来るのを見た時、自分の無力さを悟ったと言います。「その瞬間、どうしようもないと感じるので。人間として、雲を見たらもう神に頼るしかない。神様は恵み深いお方です。これは神のお恵みでした。神はこの奇跡を与えることによって、私の信仰を強めてくださいました」と、彼女は言います。
- ・祈りが聞かれた経験があるか子どもたちに尋ね、実例をみなで分かち合いましょう。
- ・ブリジットおばあさんのもう1つのお話「ブリジットおばあちゃんと雨もり」をアドベンチストミッションで見てください。

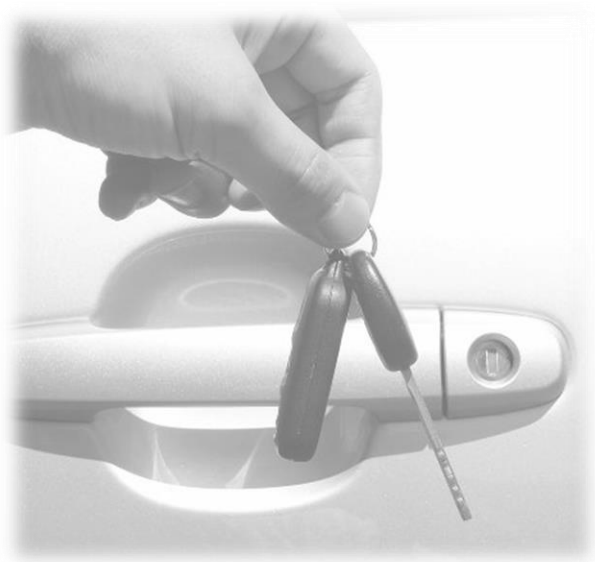
<https://bit.ly/3JfvIpP>

- ・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- ・中央ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/eud-2023
- ・この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。

「世界伝道の概念を理解し、牧師だけが伝道に献身するのではなく、老若男女問わず全ての教会員が伝道に関わり、キリストを証して弟子を作る」（「伝道の目標」NO.1）詳しくはウェブサイト [IWillGo2020.org](https://www.IWillGo2020.org) をご覧ください。

5. 見当たらない車の鍵

ドイツ



ジージー

3歳のジージーはワクワクしていました。これからドイツのフランクフルトにある空港までお父さんお母さんとお出かけするからです。お父さんは、友達のアンドリューを空港まで送らなければなりません。1時間ほどのドライブです。

ジージーはお父さんと車まで歩きました。お父さんは車を鍵で開け、ジージーを後部座席のチャイルドシートに座らせました。ジージーをしっかりと椅子に固定してからお父さんお母さんも出かける支度をしました。

しかし、何かが変です。

「車の鍵はどこだ？」とお父さんが言いました。

お父さんも、お母さんも、ジージーも、わかりませんでした。ジージーは後部座席から、お父さんとお母さんが鍵を探すのを見ていました。

お父さんはトランクを開け、中を見ましたが、見つかりません。

お母さんは前の座席周辺を探しましたが、見

つかりません。

「ついさっきまで鍵は持っていたのに」とお父さん。

「ジージーを後ろに座らせたとき、車を鍵で開けたんだ。どこにやったのかな？」

お父さんも、お母さんも、ジージーも、わかりませんでした。

「アンドリューが私たちを待っている。飛行機の時間に遅れてはいけない。どうすればいいだろう？」とお父さんが言いました。

お父さんも、お母さんも、ジージーも、わかりませんでした。

そのとき、お父さんの頭に1つのアイデアがひらめきました。

「神様にお祈りして、私たちが鍵を見つけることができるようお願いしよう」とお父さんは言いました。

ジージーはこれまでずっと黙ったままでした。しかし、この時は車の後ろから声を出して尋ねました。

「神様はここにいるの？」

それは良い質問でした。神様は近くにおられるのでしょうか？

「そうだよ」とお父さんが言いました。「私たちはただ神様に助けを求めればいいんだよ。」

お父さんも、お母さんも、ジージーも、目を閉じました。

お父さんが声を出して祈りました、

「神様、私たちが空港に遅れないためにどうか車の鍵を見つけさせてください、アーメン。」

祈り終わったお父さんが目を開けると、すぐに鍵が見つかりました。車の屋根の上にあったのです。

「やったー！ 神様が祈りに答えてくださった」と、お父さんが叫びました。

お父さんは車に飛び乗りました。お母さんも

車に飛び乗りました。ジージーは後ろの席からお父さんが車のエンジンをかけるのを見ていました。

ジージーはまた長い間、黙っていたのですがこの時、2度目に声を出してこう言いました。

「お父さん、神様が一緒にいてくれるようにお祈りするの？」

お父さんはお母さんを見つめ、それからジージーを見つめました。小さな男の子は正しかったのです。ホテルでアンドリューを乗せて、フランクフルトの空港へ行く前にお祈りをする必要がありました。

そこで、ジージーが祈ることになりました。

「神様、空港への旅をお守りください。事故に遭いませぬように。アーメン。」

お父さんも、お母さんも、ジージーも、神様が近くにいてお祈りを聞いてくださることをとても嬉しく思いました。

神様は車の鍵を見つけるためのお祈りを聞いてくださいました。

そして今度は、空港まで無事に行けるようにというお祈りも聞いてくださるはずです。

そして、その祈りは聞かれたのです！

ジージーはドイツに住む宣教師家庭の子どもです。13回献金は、宣教師たちが世界中の人たちに祈りを聞いてくださる愛の神様を伝えるために用いられます。

〈お話のヒント〉

- ・ドイツのフランクフルトを地図で見つけましょう。
- ・この話に出てくる“お父さん(エドウィン)”は、南ドイツの2つの教会を受け持つアメリカの宣教師の牧師です。この出来事は、エドウィンがアドベンチストミッション雑誌の編集者アンドリュー・マチェスニーを空港まで送って行く時に起こりました。
- ・フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- ・中央ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。[Bit.ly/ecd-2023](https://bit.ly/ecd-2023).
- ・この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。
「個人または家族を霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」(「霊的成長の目標」No. 5)
「子ども、青年の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」(「霊的成長の目標」No. 6)
「青年が神様を第一にし、聖書的世界観を持って生きる」(「霊的成長の目標」No. 7)
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ・ドイツ人はあらゆる芸術で有名ですが、その中でも特にクラシック音楽が有名です。ドイツの有名な作曲家には、バッハ、ベートーベン、ブラームス、シューマン、ワーグナーなどがいます。



6. 赤アザが消えた

イタリア



デボラ

デボラは、イタリアのシチリア島で、健康な女の赤ちゃんとして生まれました。

しかし、数カ月後、ある異変が起きました。彼女の唇に赤アザが出来たのです。その赤アザはどんどん大きくなりました。医師は赤アザを見て血管腫と診断しましたが、どう治療したらよいかわかりませんでした。

1年後、その赤アザはとて大きくなり、デボラの下唇は完全に變形し、その形はくずれてしまうほどでした。しかし、医師は何もすることが出来ませんでした。

学校に通うようになって、デボラは自分の外見が他の子どもたちと違うことに初めて気がつきました。

学校の男の子たちはデボラのことをからかって心ないあだ名で呼びました。そのために、デボラはよく泣きながら家に帰りました。彼女は言い返すことはしませんでした。デボラのお母さんは、彼女のことをいつも守ろうとしました。お母さんは、校長や他の子どもの親たち

と話し合いました。

お母さんの助けによって、男の子たちは彼女をあだ名で呼ばなくなりました。しかし、しばらくすると、また心ないあだ名で呼ぶようになりました。

女の子たちは、デボラに意地悪な話し方はしませんでした。しかし、それでも差別がなかったわけではありません。女の子たちはみな自分の水筒を持っていて、喉が渇くと水筒と一緒に使うことがよくありました。ところが、デボラには誰1人水をくれたことがありませんでした。

デボラは、女の子たちがお互いに「お水ほしい？」と尋ね合う様子を見て、自分にも誰かそう言ってくれたらなと思いました。

デボラは生後数ヶ月の時から、赤アザをなくすための治療を受けました。最初は週1回、注射を受けなければなりませんでした。年齢が上がると、注射は月1回になりました。医師は、彼女に大きな手術を2回行いました。手術のためにデボラは、電車でイタリア国内を縦断しなければなりませんでした。家のある南のシチリア島から、はるか北のミラノに近いパルマまで、長くて大変な旅でした。また、手術とその後の治療も苦しく痛いものでした。11歳になると、デボラの赤アザを薄くするために、定期的なレーザー治療を受けるようになりました。デボラはその治療によって赤アザが消えることを願っていましたが、消えることはありませんでした。

「お母さん、どうしてこんなことが私に起こったのかしら？」と、デボラはたびたびお母さんに尋ねました。

お母さんは小さなデボラを抱きしめ、聖書に出てくる使徒パウロのことを話して聞かせま

した。パウロは神様に自分の持っていた問題を取り除いてくださるよう3回祈りました。しかし、神様はその問題を取り除いてくださいませんでした。その代わり神様はパウロに、「私の恵みはあなたに十分である」(Ⅱコリント 12: 9)と言われました。

お母さんはデボラに、「神様のお恵みはあなたに対して十分なのよ。主の力はあなたを通してあらわされるのよ」と言いました。

お母さんは、神様がデボラを愛しておられることを彼女に思い出させました。「神様はあなたの人生にご計画をお持ちなの」「今はただその途中にすぎないのよ」と、お母さんは言いました。

デボラは神様の恵みが自分に十分であることを受け入れました。

デボラが 13 歳になったとき、びっくりすることが起きました。赤アザが徐々に消え始めたのです。少しずつ薄くなっていきました。そして何ヶ月かたつと、完全に消えてなくなりました。手術のあとがうっすらと残っているだけです。

今日、デボラは小さい時の自分と同じように傷ついている人たちを助けています。彼女は心理学者です。また、歌うことが好きです。彼女は美しいソプラノの声で、神様を賛美しています。

「奇跡なのはこの不完全な唇から美しい声が出るということです」と彼女は言います。

デボラと同じように歌うことが好きだったダビデ王は、次のように言います。

「わが主よ、私の唇を開いてください。／この口はあなたの誉れを告げ知らせます」(詩編 51 : 17)。

デボラは毎日神様への賛美を歌います。そしてあなたにもそれが出来るのです！

〈お話のヒント〉

- 地図でイタリアのシチリア島を見つけましょう。イタリア北部のミラノに近いパルマまでのルートをたどりましょう。
- フェイスブックの写真をダウンロードしましょう。 bit.ly/fb-mq
- 中央ヨーロッパ支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。 bit.ly/eud-2023
- この伝道地便りはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の以下の項目の具体例です。
「個人または家族を霊に満たされた生活を送れるように弟子訓練する」(「霊的成長の目標」No. 5)
「子ども、青年の信仰の継承、保持、開拓、伝道への参加」(「霊的成長の目標」No. 6)
「青年が神さまを第一にし、聖書的世界観を持って生きる」(「霊的成長の目標」No. 7)
詳しくはウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- イタリア人がメガネを発明したのは、13 世紀のことでした。メガネは、主に修道士が使っていました。古代ローマ人は拡大鏡を使っていましたが、メガネを最初に発明したのはイタリア人でした。

